

# 『国語総合』↓『現代文』教材系列一覽

1部

2部

<p>小説</p>	<p>評論・随想</p>
<p>高等学校国語総合(現代文編)</p>	
<p>芥川龍之介「羅生門」 川上弘美「神様」 志賀直哉「灰色の月」 太宰治「富嶽百景」 夏目漱石「夢十夜」 ティム・オブライエン／村上春樹訳「待ち伏せ」</p>	<p>池田清彦「『もの』の科学から『こと』の科学へ」 岩井克人「マルジャーナの知恵」 内田樹「なぜ私たちは労働するのか」 内山節「余暇について」 大森荘蔵「見る」考える」 黒崎政男「ネットが崩す公私の境」 小林秀雄「美を求める心」 鈴木孝夫「もの」とことば」 田中真知「ありのままの世界は見えない」 多和田葉子「夢は何語で見る？」 外山滋比古「情報の『メタ』化」 福岡伸一「生物と無生物のあいだ」 中村安希「子ブタと未来」 山崎正和「水の東西」 鷺谷いづみ「クマの棲める森」</p>
<p>高等学校現代文B</p>	

<p>評論</p>
<p>精選国語総合</p>
<p>池田清彦「『もの』の科学から『こと』の科学へ」 内田樹「なぜ私たちは労働するのか」 加藤周二「創造力のゆくえ」 佐藤信夫「コインは円形か」 佐藤洋一郎「森に起きていること」 野元菊雄「言語は色眼鏡である」 柳澤桂子「命は誰のものなのか」 山崎正和「水の東西」 吉岡洋「情報と身体」</p>
<p>精選現代文B</p>
<p>赤坂憲雄「木を伐る人／植える人」 岩井克人「未来世代への責任」 岸田秀「恐怖とは何か」 清岡卓行「ミロのヴィーナス」 隈研吾「コンクリートの時代」 西谷修「戦争の不可能性」 原研哉「空白の意味」 日高敏隆「木の葉と光」 若林幹夫「メディアと歴史」 松田美佐「『選べる社会』の難しさ」 丸山真男「『である』と『する』」</p>

随想		小説		評論		随想		小説			
<b>明解国語総合</b>											
池田晶子「あたりまえなこと」 内田樹「負け方を習得する」 角田光代「ベトナムのコーヒー屋」 黒柳徹子「ツゴイネルワイゼン」 塩野米松「働く喜び 技もつ体で」			芥川龍之介「羅生門」 重松清「バスに乗って」 谷村志穂「雪ウサギ」 葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 三浦哲郎「とんかつ」			堀井秀之「問題解決の心理学」 松浦啓「魚は陸から離れられない」 山崎正和「水の東西」 鷺田清「届く言葉、届かない言葉」			川上未映子「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」 鷺田清「『待つ』ということ」		
<b>現代文A</b>											
太田光「アマガエル」 角田光代「旅する本」 川上弘美「境目」 姜尚中「人はなぜ働くのか」 高畑勲「眼差しを交わす喜び」 中島敦「山月記」											
<b>明解現代文B</b>											
内山節「春」 角田光代「待つということ」 酒井順子「ズルい言葉』してあげる」 佐藤雅彦「前の駅出ました」			井上ひさし「サイン」 内海隆一郎「芋ようかん」 大崎善生「神様捜索隊」 川上弘美「水かまさり」 夏目漱石「ころろ」			竹田青嗣「『自己』について考えること」 長谷川眞理子「コンゴルドの誤り」 原研哉「持たないという豊かさ」 松沢哲郎「想像する力」			茂木健一郎「最初のペンギン」 鷺田清「わかりやすいはわかりにくい？」		
小川洋子「誰の目にもふれないところで」 さくらももこ「春の小川の思い出」 半藤一利「十五歳の東京大空襲」 別役実「なまけものコンプレックス」 茂木健一郎「最初のペンギン」			井伏鱒二「山椒魚」 恩田陸「ピクニックの準備」 中島敦「山月記」 吉村昭「破船」			岩井克人「ホンモノのおカネの作り方」 加藤周「『知る』ということ」 鷺田清「『自由』のはき違え」 渡部潤二「宇宙人」 地球以外に生命体は存在するか			安部公房「靴」 大岡昇平「靴の話」 小川洋子「飛行機で眠るのは難しい」 森鷗外「舞姫」		
<b>現代文B</b>											
夏目漱石「夢十夜」 福岡伸一「絶え間のない流れの中にある生命」 三浦しをん「求めるものに応えてくれる」 茂木健一郎「最初のペンギン」 鷺田清「モード化する社会」											